



保倉川放水路の
整備促進を
大島 洋一（創風）



問／放水路整備の最近の取組と今後の見込みは。
答／令和3年3月に概略ルートが決定し、今後、関川水系河川整備計画の変更に向けた手続や放水路計画を具体化するための調査・設計が実施される。

問／スピード感ある放水路整備には、先祖伝来の土地を離れる住民への丁寧な説明が必要であり、また、海や川、放水路で東西南北全てが囲まれ、放水路で八千浦砂丘が切れて危険が増し、東へも避難しにくくなるこの地域の住民に、万全の津波対策をすることが必要と思うがどうか。
答／地域住民にはより丁寧に細やかな説明が大切と認識している。また、万全の津波対策を講じる必要がある。国も、津波に係るシミュレーションを実施し、ソフト面を含めて関係機関と調整し対応する。必要な対策を国に働きかける。

豪雪対策は

問／除雪オペレーターの不足に対応したICT化やGPSの高精度化、除雪機械力の革新を図り、「21世紀の豪雪対策」を進める考えはないか。
答／担い手確保は大きな問題で、国、県、市で担い手確保協議会を設立し検討する。市は「除雪支援システム実証モデル事業」を実施する。また、自動化、省力化を進めつつ、安全性、機能性、操作性の改善に努める。



なおえつ つみまちアート
の進捗状況は
安田 佳世（無所属）



問／8月1日から始まる「なおえつ つみまちアート」の進捗状況と周知の取組はどうか。

答／船見公園周辺、直江津屋台会館、ライオン像のある館、安国寺通りの空き店舗の4つの会場で現代アートの作品展示を行うことを決定した。ホームページやチラシ等で周知を図り、地域との協議や働き掛けを進めていく。

問／新型コロナウイルス感染症の対策はどうか。

答／首都圏在住の作家等が市民と対面する場合には、事前のPCR検査により陰性を確認している。全国の感染状況に鑑み、県外への積極的なPRは行わず、県内を中心に来訪いただくことを想定している。展示会場においても消毒や換気、入館時の記名などで感染対策を徹底する。
問／まちなか回遊を促すための取組はどうか。
答／直江津の魅力が伝わるようなガイドマップの作成やロゴをいかした誘導サインの掲示、インフォメーションセンターの設置などを行う。

食育・地産地消の推進を

問／学校給食において、地産地消を一層推進すべきではないか。

答／学校給食における野菜の地元産使用率は13・3%であり、目標に及んでいない。関係団体と協力し、生産者を募り、納入業者及び青果市場と連携し、使用率向上に努めていきたい。



大雪対策の総括を行い、
総合的な雪対策を
橋爪 法一（日本共産党議員団）



問／昨冬の大雪対策の総括について、現在までの到達点、終了時期の見込み、結果の公表時期を聞きたい。

答／検証チームを結成し、全庁挙げて作業を進めている。7月上旬を目途に中間報告として冊子にまとめ、その後、関係機関と共に更なる検討を重ねた上で、10月下旬に最終の報告書としてお示ししたい。

問／総括はどういう基本的な視点で作業を進めているか。

答／あくまでも今後の大雪に備え、市民生活が通常どおり営まれるようにという視点だ。今回は市民や事業所に対する備えとして一定程度の提言をまとめる。

問／昨冬のような大雪は今後も起こり得るといふ捉え方が大切だ。県では豪雪地帯対策特別措置法に基づき、総合的な雪対策の計画を立てている。市でも、ちゃんと、まともな生活ができる対策を総合的に立てるべきではないか。
答／計画を策定するチームではない。検証により、大雪で市民生活に支障が出ないようしていきたい。

